

「妙聲寺ほのぼの寺子屋」の定例活動を見学しました。



広島市西区にある妙聲寺の本堂にて毎週金曜日に活動されている「ほのぼの寺子屋」を、9月8日（金）に見学しました。

お寺のある地域は、昔はネギ畑が一面に広がるのどかな場所だったそうですが、今や商業施設やマンションが立ち並び、地域の行事も減少し、住民同士のつながりが希薄になってきたそうです。そうした中、「地域の子どもは地域で守る」のスローガンのもと安全安心な子ども居場所づくりができればと、学習塾経営経験のある坊守さん（住職の配偶者）が本堂を開放して子どもたちの学習支援を、ボランティアを募り2021年に開始。基礎学力の定着はもちろん、自分が認められていることを実感し、ありのままの自分を受け入れていることで自己肯定感を高めていくことのできる居場所となることを目指しておられます。

対象者は近隣の小学生で、現在18名の子どもが登録、5名の地域の高齢者がボランティアで学習支援を行い、お互いが異世代交流を楽しんでいます。活動時間は15:00から17:00までで、小学生は下校途中に立ち寄ります。

見学当日も15:00過ぎに、低学年から高学年まで入れ替わり立ち代わり来場、「こんにちは！」と元気のよい声が本堂に響きます。「こんにちは。暑かったね、よう来たね」と笑顔で迎え入れるボランティアの皆さん。中には、息を切らし駆け込んでくる子も。本堂に入ると、自分のファイルを受け取り、ボランティアと向かい合わせで好きな場所に座って、それぞれが、まずは宿題の漢字ドリルや計算ドリルを始めます。即座に集中して取り組む子、会場内をぐるぐる歩き回る子、お友達とひとしきり話をして宿題に取り掛かる子、ボランティアさんは、子どもたちのペースに合わせて見守り、優しく声掛けをしつつ宿題開始の環境を整えていきます。「先生、教えて！ここがわからん」と積極的に質問する子や友達同士で教

え合う子などそれぞれのスタイルで取り組み、宿題終了後はボランティア先生と答え合わせをして、間違ったところは一緒に確認していました。その後は自主学習のプリントにチャレンジしたり、低学年のお子さんは、ボランティアさんとトランプを使っての計算練習をしたりと、思い思いの時間を過ごしていました。



平均滞在時間は小一時間で、終了後は自分で頑張りを評価し、よく頑張ったと思えた日には、各自出席表に好きなデザインのシールを貼付。また、20回出席ごとに「がんばったで賞」として文房具やお菓子が授与されるなど、学習意欲を高め主体的に課題に取り組む仕掛けづくりも準備されています。この日も該当者が1名あり嬉しそうに受け取っていました。



参加している子どもたちからは、「ボランティア先生が優しく教えてくれるから来るのが楽しみ」「ここに来ると、家で宿題をしなくてもいいから嬉しい」、ボランティアさんからは「子ども達から毎回元気をもらっている」「笑顔や達成感を感じていることがわかると嬉しい」などの感想が聞かれました。

また、子どもたち一人ひとりの様子を撮影し、当日の様子を保護者にLINEで報告。受け取った保護者から子育て等に関する相談を受けることも多々あるそうで、子どもの居場所づくりに加えて、保護者の心の支えにもなっていることを伺い知ることができました。

(本郷)